

	尊敬する人	学生時代に読んでおいたほうがよいと思う本とその理由 (1)	学生時代に読んでおいたほうがよいと思う本とその理由 (2)
1		A・J・クローニン「城塞」 「何のために生きるのか?」「何のために働くのか?」 そんな人生の難問に出逢った際、得るものがある、と思う。 いつの時代であっても生きていれればかならず遭遇する苦難や人生の落とし穴。その時にどう対応するか、のヒントが得られる、と思う。	エーミール・ルードニツヒ「シュリーマン トロイア発掘者の生涯」 「古代ギリシア伝説のホメロス時代の遺跡を発掘したいという少年時代からの夢」を、あらゆる逆境にも屈することなく、蓄積した財産をつぎ込んで叶えた信念と努力の考古学者の生涯を描いている。
2	川本幸民	サピエンス全史、ユヴァル・ノア・ハラリ、人類とは何かを考えるきっかけに	佐藤一斎「人の上に立つ人」の勉強、坂井昌彦、「言志四録」と「重職心得箇条」のエッセンスを現代語訳
3	父親	読書習慣が無く、特に無いです。。読んでおこう、と思いついたものがあれば良いかと。	
4	阿部正弘	禅と陽明学 安岡正篤 最初は訳が分からないかも知れませんが、年を経ることに意味が少しずつ分かってきました。今はいつ読んでも面白い。	ハーバードの人生を変える授業 タル・ベン・シャハー 自分と向き合って心を整えるのに良い本でした。これから社会に出て、人とのネットワークをつくって行く準備に良いと思います。
5	松下幸之助	苦しかった時の話をしようか／森岡毅	
6	父親	「それでもあなたの道を行け」、著者ジョセフ・ブルチャック、中沢新一訳、情報知識過多の時代にあって、アメリカンインディアンの深い知恵から、迷ったとき、迷いそうなとき、手にとり、あ〜そうかと、感じ取れるから。おすすめです。	
7	ルーサー・バーバンク	『七つの習慣』スティーブン・R.コヴィー、これだけ読んでおけば仕事がやりやすくなるから。	『ない仕事の作り方』みうらじゅん、軽さと深さと絶妙さがたまらない
8	荒木飛呂彦先生	『京大変人講座: 常識を飛び越えると、何かが見えてくる』酒井 敏ほか。学問の自由さを感じてください。特筆すべきは、他大学の変人コミュニティと共に、変人学会が設立されたこと。	『人生の大問題と正しく向き合うための認知心理学』今井むつみ。広範な内容をわかりやすく説明している入門書。認知バイアスは必須知識。
9	中村天風	あるヨギの自叙伝 パラマハンサ・ヨガナンダ アップル社の創業者の一人であるあのスティーブ・ジョブズ氏の愛読書です。	ザ・ゴール エリヤフ・ゴールドラット 制約条件の理論を小説風にしてありわかりやすい。
10		「ポール・スローンのウミガメのスープ」 / ポール・スローン+デス・マクヘール (株式会社エクスマレッジ) / 「水平思考推理ゲーム」の本です。新しい状況や未知の課題に直面した時に、経験や思い込みに囚われてしまいがちです。この本はゲーム形式で、頭の柔軟性「水平思考」をトレーニングする本です。学生時代の柔軟性に富んだ時代から、気楽なストレッチ体操として紹介したいです。「へー こんな観点気付かなかったなあ。推理って面白いなあ」と。ワークショップのアイスブレイクのネタ本として参考にしています。	「だから僕たちは、組織をかえていける ワークブック」 / 齋藤徹 著(クロスメディア・パブリッシング) / ビジネス書ではありますが、「わたしはわたし。そのまんまがいい。自信をにって、今のわたしを輝かせよう」のテーマで進むワークブックです。

11	Al Davis (Allen R. Davis)	「夜の果てへの旅」ルイ＝フェルディナン・セレーヌ。本当は「何でも良いから沢山」が回答なのですが、長くて難解な本は、まとまった時間が取りやすい社会人になる前にぜひ。その中から興味がある分野のものを読むといいと思います。プルーストとかジョイスとかトルストイとか、ヴィトゲンシュタインとかニーチェとか、一部のSFとか色々あります。今回は、その中で、歳をとるとちょっと読みにくいかも、というのを一例としてピックアップしました。	「エンジニアとして世界の最前線で働く選択肢」竜盛博。ソフト屋がアメリカで働くためのガイド本という体ですが、ソフト屋でなくてもアメリカで働く気が無くても、ビジネスパーソンなら知っておくべきと思う内容がいっぱいです。読み物として読めば良いです。振り幅広く複数の視点を持ってビジネスパーソンとしてスタートするのに、役に立つんじゃないでしょうか。
12	「出川 通」先生 先生の教えや生き方が、自分の人生の転換点となった	「組織のネコという働き方」中山達也(楽天大学学長)著 就職する前に会社に使われる生き方ではない、会社を使う生き方もあることを知っておいてほしいから	
13	大学時代の恩師	夏目漱石の「三四郎」すでに読んだことのある方も、三四郎と同じ年頃になった今、もう一度読まれたら新たな啓発があるかと思います。激変する社会の構成者となる未来を定められた若者が、願わずとも大人になっていかざるを得ない心境と覚悟が、私には長く心に残りました。	
14	宮内義彦、出口治明	本を読む人だけが手にするもの(藤原 和博) 本を読む意味を問いかけている本。読書好きの方は多いと思いますし、読書の重要性や有効性について書かれた本は多くありますが、ビジネスに関連付けた分かりやすい話がありますので、推薦しました。	グッドリスクをとりなさい!(宮内 義彦) 社会人が仕事をする上での心がけを伝えるもの。ビジネス界をリードした方の長年の経験から得られた知見を書かれたものだけに、きっと役に立つと思います。実践的な内容が多く、社会人になってからも繰り返し読むことをお勧めします。自身の経験と照らし合わせることで、書かれている意味がより理解できると思います。
15	藤田元司(読売巨人元投手・監督 故人)	「イノベーションのジレンマ」クレイトン・クリステンセン工学部・高専の講義で引用した中で	『「他人の目」が気になる人へ』加藤諦三 早稲田大学(学生時代の心理学のゼミの恩師)
16	坂本龍一	7つの習慣、スティーブン・コヴィー、ここ数年新入社員に勧めている本で、社会人として必要なエッセンスがまとめられているから	地頭力を鍛える、細谷 功、考える力は一生使える能力で特に技術系の人は必要なスキル
17	周りの皆さん	思考の整理学	7つの習慣
18	フレデリック・サンガー	坂の上の雲 司馬遼太郎 多少長いのが玉に瑕ですが、有名な小説なので読んでおくと基礎知識になることと、主人公の秋山兄弟をはじめ明治のはじめの若者も時代の変革期にどのように身を立てようかと悩んだ様子が詳しく書かれているから。	
19	大学の研究室の恩師 竹内 賢一先生	「日本のたくみ」著者 白洲正子 推薦理由 日本の歴史や文化に根付いた、手仕事で創り出される各地の素晴らしいモノ、美しいモノの技術・背景、味わいなどを識ることができる内容です。また、白洲正子の筆致に触れることでその表現の豊かさ、素晴らしさを知って欲しいと思います。	「経済学は人びとを幸福にできるか？」著者 宇沢弘文 推薦理由 経世済民とは何かを理解するためには、この本をまずおすすめします。人間・社会と経済の関わりを見直すことができると思います。
20	江川英龍?	シン読解力・新井紀子・意外と自分も足りてないのかも、と自省…。	空想の補助線 幾何学、折り紙、ときどき宇宙・前川 淳・読みかけですが、展開が面白い